

## モーリシャス豆知識・小話 第5号

2017年9月

(1) ポートルイス～キュールピップ間、メトロでゴー！

この半年ほど、マスコミで頻繁に取り上げられているメトロ・エクスプレス建設計画がついに始まったようです。正確にはライト・レール・トランジット(LRT)という類いのものらしいので、我々の感覚ではむしろ路面電車に近いのかもしれませんが。ポートルイス～キュールピップ間を19の駅で結ぶ総延長26kmの電車。建設費用はほぼインドからの無償と借款で賄われるとのこと。これまで建設費用総額やルートがはっきり明示されてこなかったこともあり、また、電車が通れば職を失う恐れのあるバスやタクシーの組合、土地収用される線路施設対象区域住民などの反対、デモ、さらには裁判などもあり、未だもって賛否両論あるようです。

以前の労働党政権時には、ポートルイス港をまたぐ大橋の建設計画があったのを、建設費用があまりに膨大となったことから、現政権になりこのメトロ計画に切り替わったとも聞きました。ともにポートルイス市とその近郊、特に島の西部を南北に走る、いわばモーリシャスの太平洋ベルト地帯の交通渋滞緩和が目的であることには変わりありません。日々その渋滞で通勤地獄に巻き込まれる私としても早く何とかしてという感じです。

実際、この渋滞による経済的損失は相当なものではと思います。電車ならエコでもあるし、観光立国のこの島国にもぴったりでは。いっそ、島を一周する、江ノ電みたいな電車を走らせ、周遊券でも販売すれば、観光客も飛びつくのではと思うのですが。そうなるとますます観光業者、タクシー業界は反発するのかな。

鉄道輸送によってこの国の暮らしや経済がどう変わっていくのか、不安に思う人もいるのは無理からぬことでしょう。しかし、ピンチこそチャンス。電車が走ることできっと新たな何らかの需要が生まれるかもしれません。今は産みの苦しみの時期なのかも。いずれにしろ、共に自分たちの暮らしとこの国の発展について真剣に考え、暴力などに訴えることなく喧々諤々の議論を戦わせる賛成派、反対派、双方にエールを送りたいと思います。

いつかこの国にも鉄道マニアの鉄ちゃん、鉄子が出現するのだろうか。何の脈絡もなく、ふとそんなことが頭に浮かびました。

## (2) 神様に国境はない！



モーリシャスは多民族国家だけに宗教もいろいろ。私も当地に来て初めてこうした宗教のイベントを体験しています。まずはイスラム教のラマダン明けのお祝い。イードの集まり。ビリヤニ・プレをしこたま食べて、甘〜いデザートをもっと食べて、アルコール出ないからジュースでおなかに流し込んで、と、どんだけ糖分を摂ったことか。まあそれはさておき、今度はヒンドゥー教を見参しましょう。町中でもコテコテのヒンドゥー寺院をよく見かけますね。先日は当地インド・ヒンドゥー系モーリシャス人の結婚式に、私も彼らが晴れの機会に着用するコータをしつらえお邪魔しました。花嫁さんのお清めの儀式がヒンドゥー教のお坊さんにより延々と続き、おなかが減ってきたところで別室に行ってバナナの葉の上に乗せたカレーをいただきました。右手のみを使って食べるのは難しかったけど、なぜかとてもおいしかった。

こうした宗教、我々日本人の宗教とはやっぱ違うなー、とどこか遠巻きに見ている自分がいたのですが、先月行われたガネーシャのお祭り、この神様のことを聞いてからちょっと見方が変わりました。ガネーシャは、ご存じの通り、片牙の折れたケバケバしいピンクのゾウさんが主人公のお祭りで、富の神様として人気が高いらしいのですが、モーリシャス人の知人から、「ガネーシャは日本にもいるよ、歓喜天（天台宗や真言宗の日本密教で）と呼ばれているらしい」とのことでした。それだけではありません。歓喜天は知らなくても大黒天や毘沙門天等の名前は聞いたことがあるでしょう。これら日本の七福神や八百万の神として知られる神様達の何人かもヒンドゥー教から来ているらしいのです。なんと！

確かに仏教そのものがインド起源だから、どこかでつながっていても何ら不思議はないですね。今やしっかり日本の中に溶け込んでいる神様達、日本のお寺や神社で祀られているなじみ深い神様達がここにもいるんだ、そう考えるとモーリシャスの至る所で見かけるヒンドゥー寺院やその神様にも急に親近感が芽生えてきました。

今、日本でもムスリム人口が増えていると聞きます。ハラールのお肉もスーパーで取り扱うところが出てきているとか。いつか、このヒンドゥー教と同じように、イスラムの風習も日本人の生活・習慣の中に普通に溶け込み、えー、それって元々はイスラム教から来ているの！？と驚く日が来るのかもしれないね。神様、やはり恐るべし。